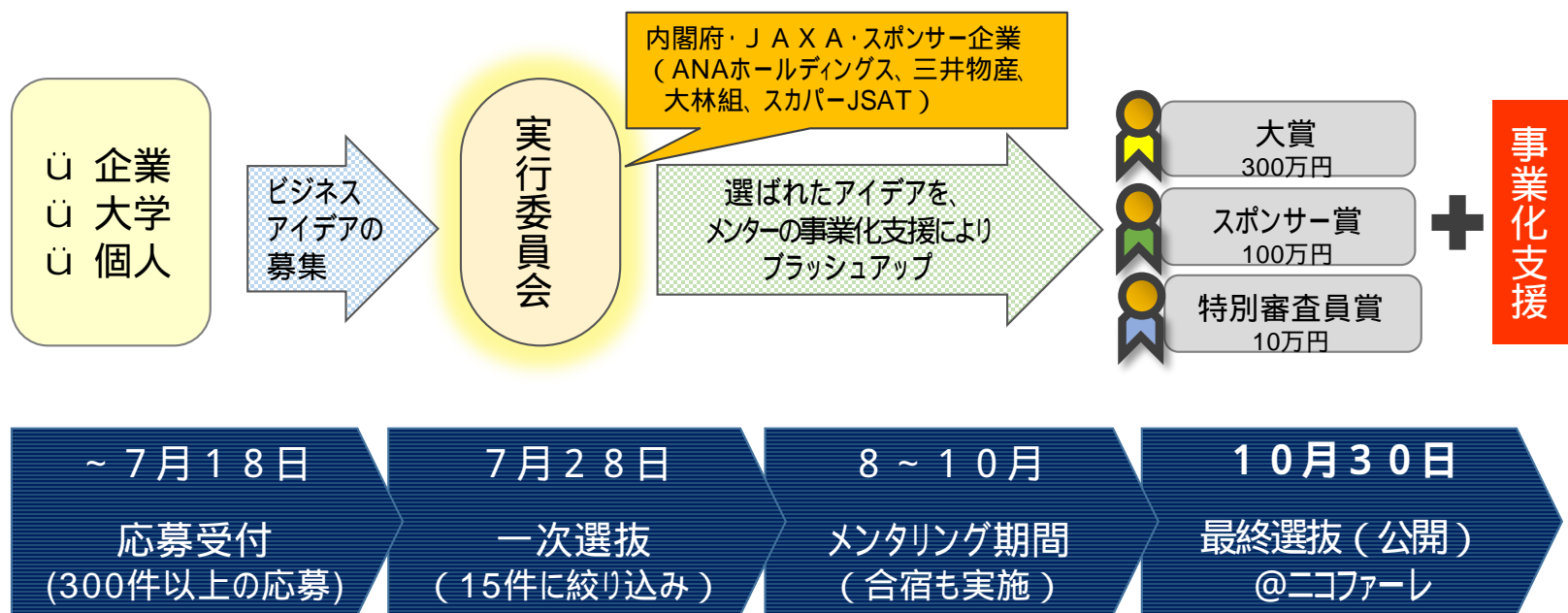


ビジネスアイデアコンテスト (S-Booster 2017)

1 . ビジネスアイデアコンテスト (S-Booster 2017) の活動実績

- 「S-Booster2017」とは、宇宙を利用した新たなビジネスアイデアコンテスト。今年度が初の試み。
- ベンチャー企業のみならず、学生や個人、異業種からアイデアを幅広く募集。300件を超える応募。メンターによるブラッシュアップを通じた事業化支援を行う。
- 最終選抜会では、各ファイナリストは投資家等に向けてアイデアを発表。その後の資金調達に結び付けることが狙い。



2 . 最終選抜会の概要

開催日時： 平成29年10月30日（月）14:00～18:00

開催会場： 六本木ニコファーレ

参加者： 宇宙関連企業、ベンチャー企業、VC等の投資家、メディア関係者など100名以上
さらに、ニコニコ動画で1万3,000名以上が視聴し、1,000件以上のコメント。



(出典:livedoor NEWS掲載記事)

最終選抜会の様子



フォトセッション

詳細はホームページ参照：<https://s-booster.jp/>

3 . 大賞受賞者の提案概要



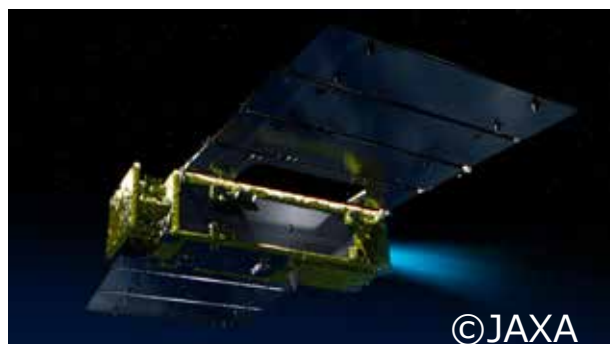
大賞

「超低高度衛星搭載ドップラーライダーによる飛行経路・高度最適化システムの構築」

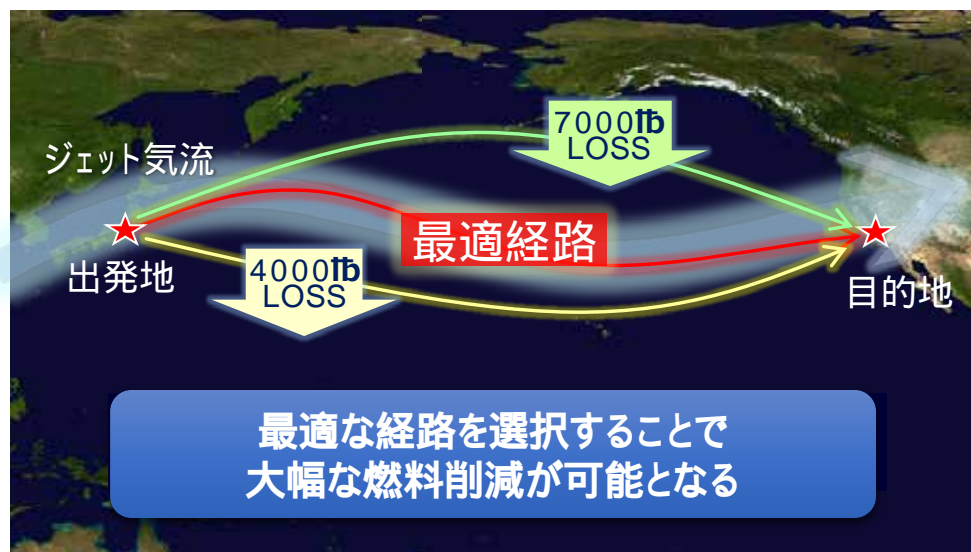
提案者： 松本 紋子（ANAで運行管理者資格を有する社員）

- 1 超低高度衛星に搭載したドップラーライダーから得られる3次元の風速データを基に、飛行機の最適な飛行経路・高度を算出。飛行中の飛行機に都度その情報を伝達することで、燃費を大幅に向上。
- 1 これにより、年間364万トンの燃料削減効果、3,200億円の経済効果が期待（提案者試算）。

超低高度衛星搭載ドップラーライダー



3次元の風速データを随時収集



4 . S-Booster 2018 の今後のスケジュール

└ 今後のスケジュール(予定)

既存ホームページにて詳細発表
<https://s-booster.jp/>

< 平成29年度事業 >

最終選考会参加者等による状況報告 平成30年3月20日

< 平成30年度事業 > (予定)

提案公募開始

平成30年4月下旬

応募締切

平成30年5月末

審査

平成30年6月

メンタリング開始

平成30年7月上旬

最終選抜会

平成30年10月末

└ 来年度以降の改善の方向性

賞を授与するにとどまらず、**受賞後のビジネス・アイデアの事業化に向けた支援を強化**。(S-Matchingやモデル事業等との連携など)

宇宙開発利用大賞

1 . 宇宙開発利用大賞の概要

- 宇宙開発利用大賞は、宇宙開発利用の推進に多大な貢献をした優れた成功事例の功績をたたえ、我が国の宇宙開発利用の更なる進展等に寄与することを目的とした表彰制度。
- 平成25年度に創設後、隔年で開催しており、今年度で3回目。

選考プロセス

公募 (10/2 ~ 12/11)

選考委員会による審査 (採点、議論)

各大臣賞等の推薦案件を決定

各大臣賞等の決定

表彰式 (3/20)

表彰の種類 (11種類)

- 内閣総理大臣賞
- 内閣府特命担当大臣 (宇宙政策) 賞
- 総務大臣賞
- 文部科学大臣賞
- 経済産業大臣賞
- 環境大臣賞
- 宇宙航空研究開発機構理事長賞
- 外務大臣賞
- 農林水産大臣賞
- 国土交通大臣賞
- 防衛大臣賞

前回 (第二回) 宇宙開発利用大賞の結果

(内閣総理大臣賞)

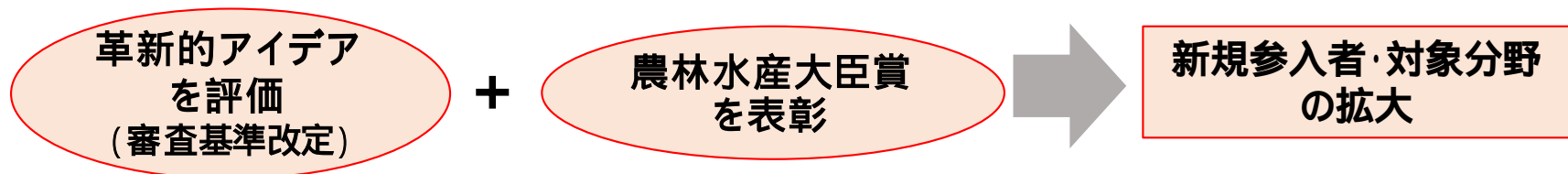
- 全世界デジタル3D地図提供サービス
/ (株)NTTデータ、(一財)リモート・センシング技術センター

(内閣府特命担当大臣 (宇宙政策) 賞)

- 地球観測データを活用した天候インデックス保険の開発
/ 損害保険ジャパン日本興亜(株)、損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)

2. 第3回宇宙開発利用大賞における改善点

- 「宇宙産業ビジョン2030」を踏まえ、ベンチャー企業等の新規参入者からの応募を歓迎し、従来の発想にとらわれない、世界に先駆けた革新的なアイデアや新たな分野への取組みも積極的に評価(新たに審査基準に追加)。
- 第2回までの10種類の表彰に加え、新たに農林水産大臣賞を創設することで、農林水産分野における宇宙開発利用の表彰機会を拡大。



(参考) 宇宙産業ビジョン2030(抜粋)

(宇宙開発利用大賞の抜本強化)

内閣府では、2013年度から我が国の宇宙開発利用における優れた成功事例を表彰する制度として、宇宙開発利用大賞を実施している。

今般、宇宙開発利用大賞を抜本強化する。具体的には、従来は宇宙の開発利用に成功した優秀事例の表彰に止まっていたが、その対象を拡大し、今後の成功を目指す有望なベンチャー企業等を対象に加えるなど、アイデア開拓を活性化させるとともに、優秀なアイデアについては事業化までつなげていく。

3 . 表彰式について

- ㊦ 3月20日の夕方、イイノホールで第3回宇宙開発利用大賞の表彰式を実施予定。例年、各省の政務にも御出席いただき実施。
- ㊦ 本年は若手投資家を集めたイベントやシンポジウムを盛大に開催。

プログラム(案) ※時間は変更の可能性あり

- I 日時: 平成30年3月20日(火)
 - 14:30 ~ 17:30 シンポジウム
 - 17:30 ~ 18:00 「S-Matching 投資家等グループ」発表イベント
 - 18:00 ~ 18:30 第3回宇宙開発利用大賞表彰式
- I 場所: イイノホール&カンファレンスセンター(内幸町)

- S-Booster、S-NET、モデル実証事業等の取組を総括。
- また、宇宙開発利用大賞の選考委員による振り返りセッションもあり。

前回の表彰式の様子



島尻大臣挨拶



内閣総理大臣賞



記念撮影

4 . 宇宙開発利用大賞の拡充に向けた取組

U 表彰式のタイミングをとらえ、選考委員によるパネルディスカッションを実施するなど、認知度を高め、応募のインセンティブを高める取組を実施。

Ü 選考委員によるパネルディスカッションの実施

- 様々な立場の選考委員が、評価の観点や選考理由を発信。
- 選考委員と応募者とのコミュニケーションを図れる仕組みとして構築。

Ü PR動画の作成

- 受賞事例の認知度を高め、受賞効果を高める取組として実施。
- 宇宙開発利用大賞自体の認知度向上にも寄与。

U また、過去の受賞者に対してアンケートを実施し、回答を集約した上で、制度改善の方向性等について検討(アンケート実施中)。

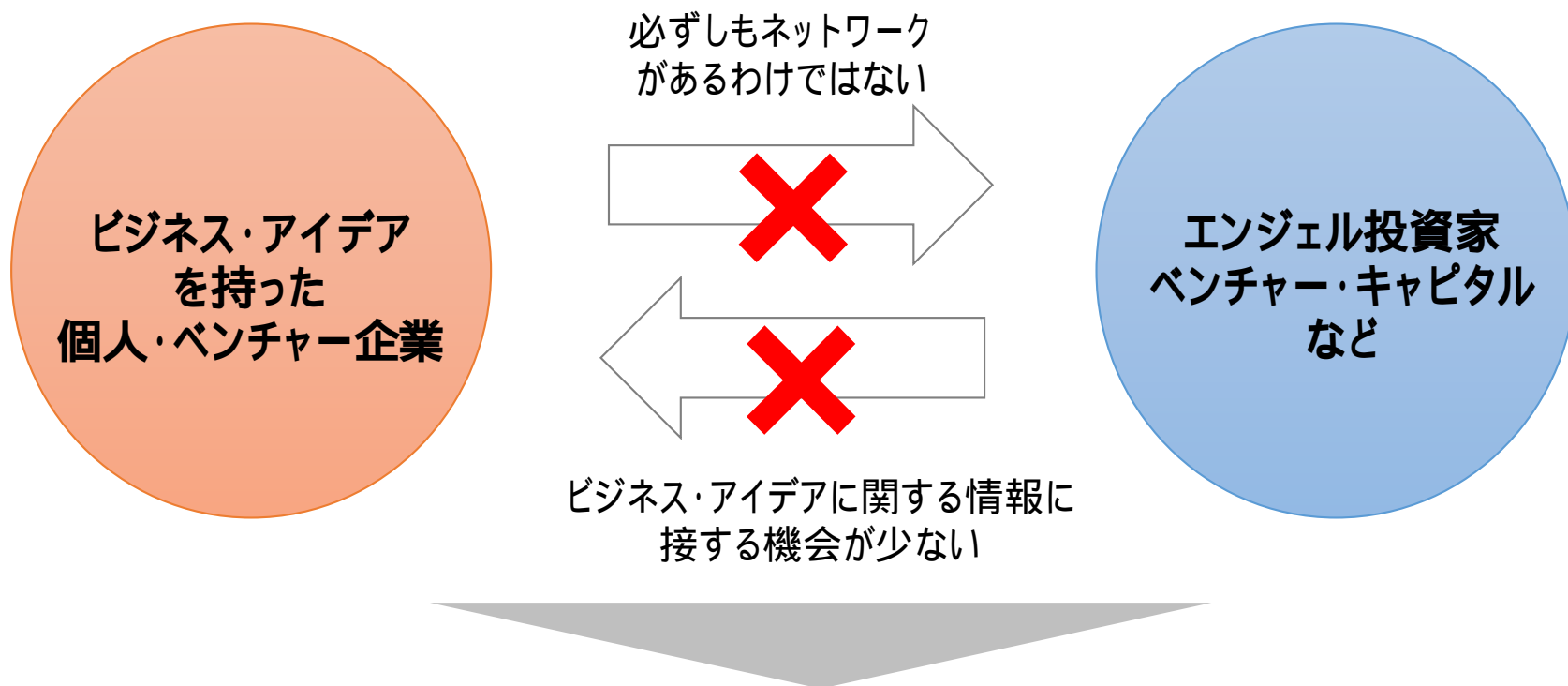
アンケート項目

1. 受賞案件の現状(事業やプロジェクトが受賞後も継続しているか)
2. 受賞後の変化(売上げが伸びた、ビジネスや共同研究の引き合いが増えた、資金調達が容易になった、メディア露出が増えた等。できるだけ定量的に)
3. 受賞後に望むサポート(政府関連予算や政府系金融機関の紹介、他事業者とのマッチング支援、シンポジウムや展示会等でのプレゼン機会等)
4. 宇宙開発利用大賞についての改善要望

宇宙ビジネス投資マッチング・サイト （「S-Matching」）

スタートアップ段階における民間リスクマネーの必要性

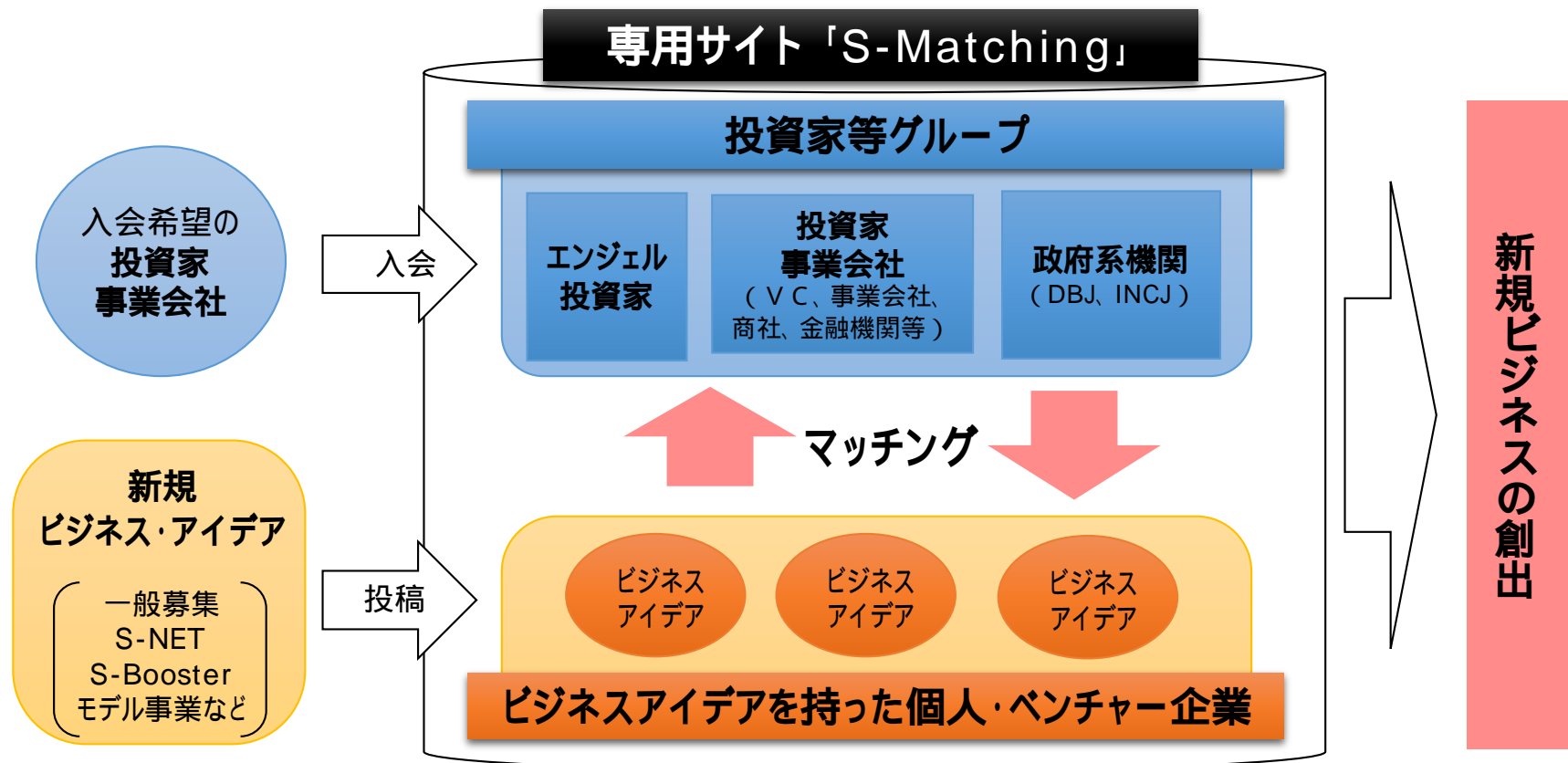
- u 一方、更に初期段階のスタートアップにおいては、エンジェル投資家やベンチャー・キャピタル（VC）などの民間投資家から、数千万程度のリスクマネーが必要。
- u しかし、起業を志す個人や新規ビジネスを企図するベンチャー企業等は、必ずしも複数の投資家・事業会社にネットワークがあるわけではない。また、投資家・事業会社も、スタートアップ段階のビジネス・アイデアに関する情報に接する機会が少ない。



両者のマッチングが必要

宇宙ビジネス投資マッチング・サイト（「S-Matching」）^{エス・マッチング}

- 宇宙ベンチャー企業の創出・育成を図ることを目的に、特に、スタートアップ段階において、**新たなビジネス・アイデア等を有する個人・企業等と、投資家とのマッチングを円滑化するためのプラットフォーム（S-Matching）を創設。**
- 個人・企業等は、通年で投資家に対して自らのビジネス・アイデア等を直接アピールすることが可能。また、投資家は早い段階からより多くのビジネス・アイデア等に接することが可能。



政府衛星データのオープン & フリー化

「政府衛星データのオープン＆フリー化及びデータ利用環境整備に関する検討会」 検討結果概要

(1) 各階層の方向性

< 第1階層：政府衛星データ >

- JAXA等の政府衛星データを使用しやすい形に処理したデータをオープンフリー化。
- 観測後、アーカイブされたデータをプラットフォーム上に公開（データ配布事業者が既に契約されている場合、その事業への影響を考慮したスキームを構築）等

< 第2階層：プラットフォーム >

- プラットフォームに搭載されたデータは、ユーザが自由に利用できる環境を構築
- 衛星データに親和性の高いAI技術をプラットフォーム上で利用可能とすべく、産業技術総合研究所等との協力で推進。等

< 第3階層：データ利用促進 >

- 企業等の商業利用を解禁。
- プラットフォーム（第2階層）とエンドユーザをつなぎあわせる企業・個人を巻き込む。またデータコンテスト等を通じてイノベーションを創出。等

(2) 経済効果

- 2030年に約3,400億円の経済効果が期待（(株)三菱総合研究所が試算）

(3) 事業スキーム（案）

- 将来の民営化を前提に、当初は政府予算を投入し、以下のスキーム（案）で事業を実施することを想定。



政府衛星データのオープン&フリー化及びデータ利用環境整備事業費

事業期間（平成30年度～平成32年度（開発段階））

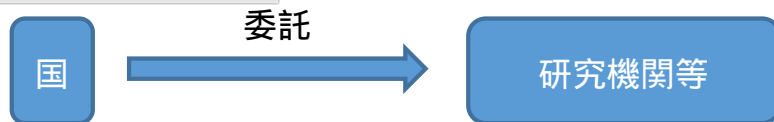
事業概要・目的

昨今、技術革新や新規参入等を背景に、宇宙由来の様々なデータの質・量が抜本的に向上しつつあります。こうした中、衛星データは単なる宇宙由来のデータではなく、ビッグデータの一部として様々なデータと組み合わせることで、農業、漁業、防災分野等の課題に対しソリューションを提供していくことが期待されています。

一方、政府が運用する地球観測衛星のデータは、産業ユーザーが利用可能なフォーマットでオープン化されておらず、また、衛星データの加工には高い専門性や高価な処理設備・ソフトウェアが要求されることから、その産業利用は限定的な状況に留まっています。

そのため、本事業では、政府衛星データのオープン&フリー化を行うとともに、AIや画像解析用のソフトウェア等を活用したデータプラットフォームの開発を行います。これにより、民間企業や大学等が衛星データを利用しやすい環境整備を実現し、新規アプリケーション開発による新規ビジネス創出を促進します。

資金の流れ



事業イメージ・具体例

衛星運用主体

・衛星運用、
データ処理

標準処理
依頼



データ
提供



研究機関

データプラットフォーム
開発

ユーザインターフェース
開発

オープン&フリー

ユーザ

アプリケーション開発

新規ビジネスの創出

ユーザの利用しやすい
データプラットフォーム、
ユーザIFを構築することで、
参入障壁を取り除き、
新規アプリケーション事業者
の創出を促す。

AI、ビッグデータ利用により、
我が国のアプリケーション事
業者の競争力強化を狙う。

期待される効果

最終的にはデータプラットフォームへの登録件数500件を目指します。

**宇宙ベンチャー支援を
一層推進していくための論点
(ご審議いただきたい事項)**

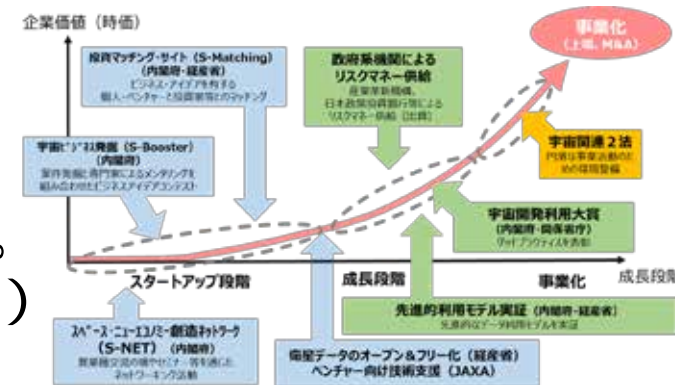
今後、宇宙ベンチャー支援を一層推進していくための論点

❏ 既存に実施している施策の課題はないか？ 課題

- S-NETなど既存取組について見直すべき事項はあるか。

❏ 強化・重点化すべき施策はあるか？ 強化

- H31要求を見据えて拡充・重点化すべき施策は何か。
(例：利用官庁の巻き込みをどのようにしたら良いか。)



❏ 不足している支援は何か？ 支援

- スタートアップから事業化までシームレスな支援策となっているか。
(どこかで途切れていないか？人・モノ・カネ・戦略等での支援はカバーしているか？)
- 政府支援策・宇宙利用事例を十分に投資家・非宇宙等に発信できているか。